



# Sun Fire™ X4500 サーバー リリースノート (Software Release 1.1)

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-1149-10  
2007年4月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利・商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



# 目次

---

## はじめに v

1. **Software Release 1.1 へのサーバーのフラッシュアップグレード** 1
  - サーバーを Software Release 1.1 にフラッシュアップグレードする方法 2
    - ILOM SP と BIOS のフラッシュアップグレードの手順の概要 3
    - サーバーのファームウェアのバージョンを確認する方法 5
      - 管理イーサネットポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法 5
      - シリアルポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法 6
      - Web GUI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法 8
      - ILOM のサービスプロセッサのアドレスの検索 8
      - SP をリセットする方法 9
    - ILOM ファームウェア 1.1.1 へのアップデートに関する注意事項 10
      - ILOM ファームウェアと BIOS をアップデートした後に、空の FRU 情報が表示される (6406138) 10
      - CLI からアップデートすると JavaRConsole にキーボードリダイレクトのエラーダイアログボックスが表示される (6485951) 10
      - BIOS のアップデート後、CMOS 設定がクリアされるまで、ホストシステムのシリアルコンソールが停止する (6489959) 11

ILOM フラッシュアップデートの新しいレイアウト 11

ILOM 1.0.x へのアップグレードで、BIOS のフラッシュが正常に終了しない  
(6499287) 12

新しいイメージをフラッシュした後、ILOM WebGUI にログインできないこ  
とがある (6513809) 12

フラッシュを正しくアップデートできなかった場合の回復方法 13

リリース別のコンポーネントのバージョン 18

# はじめに

---

本書では、Sun Fire™ X4500 サーバーをアップグレードする手順と注意事項を説明します。

---

## 関連ドキュメント

Sun Fire X4500 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、次の URL で、該当する製品のドキュメントサイトをご覧ください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/x4500/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4500/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

---

## 製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X4500 サーバー製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

これらのサイトから、ファームウェアとドライバのアップデート、および CD-ROM .iso イメージをダウンロードできます。

---

## Sun テクニカルサポートの連絡先

Sun Fire X4500 サーバーに関して、本書に記載されていないテクニカルな質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

「Support (サポート)」メニューにある「Knowledgebase (ナレッジベース)」へのリンクを参照してください。

Sun テクニカルサポートに連絡する前に、次の情報を確認してください。これにより、問題を解決するための支援が可能になります。

- 問題の内容 (問題が発生した状況、操作への影響など)
- コンピュータの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン (パッチや問題に影響を及ぼしている可能性のある他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログまたはコアダンプ

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。Sun 社へのフィードバックには、次の Web ベースのフォームをご利用ください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4500 サーバーリリースノート (Software Release 1.1)』、部品番号 820-1149-10





# Software Release 1.1 へのサーバーの フラッシュアップグレード

---

この章では、Sun Fire X4500 サーバーを Software Release 1.1 にアップグレードする手順と注意事項を説明します。次のセクションがあります。

- 「サーバーを Software Release 1.1 にフラッシュアップグレードする方法」 (2 ページ)
- 「サーバーのファームウェアのバージョンを確認する方法」 (5 ページ)
- 「ILOM ファームウェア 1.1.1 へのアップデートに関する注意事項」 (10 ページ)
- 「フラッシュを正しくアップデートできなかった場合の回復方法」 (13 ページ)
- 「リリース別のコンポーネントのバージョン」 (18 ページ)

---

# サーバーを Software Release 1.1 にフラッシュアップグレードする方法

Integrated Lights Out Manager (ILOM) のファームウェア (FW) と BIOS は密接に連携しているため、必ず一緒にアップグレードします。Software Release 1.1 には、ILOM FW と BIOS の新しいアップグレードと、次のオプション機能が追加されています。

- ILOM FW (Version 1.1.1) : サービスプロセッサ (SP) ビルド 15632 と BIOS 18 を含む
- 新しいブート可能診断 CD (Version 1.2) : SunVTS 6.3 の CD イメージを含む
- Linux インストール用の Sun Installation Assistant CD のイメージ (新規)
- ツールとドライバのソフトウェア (新規) : 次の強化機能を含む
  - IPMItool (Version 1.8.8.3-1) (新規)
  - Intel の NIC Teaming、AMD の Machine Check Analysis (MCA)、Power Monitor、PowerNow などのツールに対応する Windows Server 2003 のドライバ用のデバイスドライバ (新規)

次のセクションで、サーバーを Software Release 1.0 から 1.1 にアップグレードする手順の概要を説明します。

# ILOM SP と BIOS のフラッシュアップグレードの 手順の概要

1. ILOM ファームウェアの現在のバージョンを確認します。「[サーバーのファームウェアのバージョンを確認する方法](#)」(5 ページ) を参照してください。

---

ソフトウェアのバージョン	ファームウェアのバージョン	ファームウェアのビルド
Release 1.1	FW 1.1.1	15632
Release 1.0	FW 1.0.3	11888

---

2. 「[ILOM ファームウェア 1.1.1 へのアップデートに関する注意事項](#)」(10 ページ) で、フラッシュアップグレードに関する既知の問題と注意事項を確認します。
3. 次の URL のリンクを参照して、フラッシュイメージファイル (.ima) をダウンロードします。

<http://www.sun.com/download/>

- a. 「**Hardware Drivers** (ハードウェアドライバ)」セクションを探します。
- b. 「**X64 Servers & Workstations** (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。
- c. 「**Sun Fire X4500 Software 1.1**」をクリックします。
- d. 「**Download** (ダウンロード)」をクリックします。
- e. ユーザー名とパスワードを入力します。

---

**ヒント** – ユーザー名とパスワードがない場合は、「**Register Now** (今すぐ登録)」をクリックしてユーザー登録します (無料)。

---

- f. 「**Accept License Agreement** (使用許諾契約書に同意する)」をクリックします。
  - g. **ILOM 1.1.1 ファイル** (ILOM.X4500-1.1.1.ima) をクリックします。
4. 次のいずれかを使用してフラッシュアップグレードを実行します。
    - ILOM の GUI
    - ILOM CLI の load コマンド
    - N1 System Manager

---

**ヒント** – Web ベースの GUI を使った操作では大量のメモリを使用するため、ILOM ファームウェアは N1 System Manager または ILOM CLI の `load` コマンドを使ってアップグレードしてください。

---

ファームウェアのフラッシュについては、N1 System Manager に関するドキュメント、または該当するプラットフォームに対応するバージョンの ILOM 管理ガイドを参照してください。次に例を示します。

ILOM CLI で、次のコマンドを使用します。

```
load -source tftp://tftp サーバー /firmware.ima
```

`tftp` サーバーの部分には、簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) サーバー、`firmware.ima` はイメージファイルの名前を入れます (ILOM.X4500-1.1.1.ima など)。

Sun N1 System Manager のオンラインドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/n1.sysmgr#hic>



---

**注意** – フラッシュアップデートを正しく行うには、フラッシュアップデート中に ILOM の設定を変更したり、他のインターフェイス (ILOM GUI、CLI、SNMP、IPMI など) を使用しないでください。ILOM の設定は、フラッシュアップグレードが正しく終了してから変更してください。ILOM のアップデート中に ILOM の設定が変更されたことや、複数のユーザー (接続) が ILOM を使用していることが検出されると、サービスプロセッサがリセットされることがあります。

---

---

**注** – ファームウェアをアップグレードすると、サーバーと ILOM はリセットされます。アップグレードの完了には、約 20 分かかります。その間、ILOM の特別なモードで新しいファームウェアがロードされます。ILOM では、ファームウェアのアップグレードが完了して ILOM がリセットされるまで、他のタスクを実行できません。

---

フラッシュアップグレードの実行手順は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』の ILOM ファームウェアをアップグレードする方法に関するセクションを参照してください。このガイドは、次の URL から入手できます。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/X4500/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/X4500/index.html)

5. (省略可) フラッシュアップグレード後にシリアルコンソールに出力できなくなった場合は、CMOS の設定をクリアしてください。BIOS のアップグレードにより、CMOS のデフォルト設定が変更される可能性があります。

CMOS の設定をクリアするには、次のコマンドを使用します。この例では、デフォルトのユーザー名 `root` とデフォルトのパスワード `changeme` を使用しています。

```
ipmitool -U root -P changeme -H SP-IP chassis power off
ipmitool -U root -P changeme -H SP-IP chassis bootdev disk clear-cmos=yes
```

SP-IP の部分には、サービスプロセッサの IP アドレスを入れます。

6. (省略可) フラッシュアップグレード中に問題が発生した場合は、「[フラッシュを正しくアップデートできなかった場合の回復方法](#)」(13 ページ) を参照してください。

---

## サーバーのファームウェアのバージョンを確認する方法

このセクションでは、次の 3 つの確認方法を説明します。

- 「[管理イーサネットポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法](#)」(5 ページ)
- 「[シリアルポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法](#)」(6 ページ)
- 「[Web GUI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法](#)」(8 ページ)

### 管理イーサネットポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. イーサネットケーブル RJ-45 を後面パネルのイーサネットポート NET MGT に接続します。
2. 次のコマンドにより SSH 接続を確立し、プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワード changeme を入力します。

```
# ssh -l root SP-IP
```

SP-IP の部分には、サービスプロセッサの IP アドレスを入れます。

```
changeme
```

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

3. `version` コマンドを入力します。次のような出力が返されます。

-> **version**

SP firmware version: 1.0.3

SP firmware build number: 11888

SP firmware date: Tue Sep 13 12:50:37 PDT 2006

SP filesystem version: 0.1.13

ILOM ファームウェアのビルドバージョンは、上記の build number (ビルド番号) です。

## シリアルポートから CLI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. 端末デバイス、またはラップトップか PC で稼働しているターミナルエミュレーションソフトウェアを次のように設定します。

- 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
- 9600 ボー
- ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
- ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)

2. サーバーの背面にある RJ-45 SER MGP ポートに取り付けられたシリアルケーブルを、端末デバイスまたは PC に接続します。

3. 端末デバイスで Enter キーを押して、端末デバイスとサーバーの SP との接続を確立します。

SP にログインプロンプトが表示されます。

SUNSP0003BA84D777 login:

この例のログインプロンプトでは、0003BA84D777 が SP のイーサネット MAC アドレスです。このアドレスは各サーバーによって異なります。

4. ILOM SP にログインして、デフォルトのユーザー名 (**root**) とデフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

5. `version` コマンドを入力します。次のような出力が返されます。

```
-> version
```

```
SP firmware version: 1.0.3
```

```
SP firmware build number: 11888
```

```
SP firmware date: Tue Sep 13 12:50:37 PDT 2006
```

```
SP filesystem version: 0.1.13
```

ILOM ファームウェアのビルドバージョンは、上記の `build number` (ビルド番号) です。

## Web GUI を使用してファームウェアのバージョンを確認する方法

1. ブラウザの URL フィールドにサーバーの SP の IP アドレスを入力して、ILOM Web GUI に接続します。次に例を示します。

`https://129.146.53.150`

2. ILOM SP にログインして、デフォルトのユーザー名 (**root**) とデフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

最初に表示される Web ページは、「System Information (システム情報)」 → 「Versions (バージョン)」 ページで、ここにビルド番号が記載されます。

## ILOM のサービスプロセッサのアドレスの検索

ILOM SP と SP の IP アドレスを調べる方法は次の通りです。

- Sun N1 System Manager: `n1sh` コマンドを使って、管理しているシステムの ILOM SP の IP アドレスを表示します。  
たとえば、Sun Fire X4500 サーバーを一覧に表示するには、次のようなコマンドを使用します。

```
n1sh show server | grep 'X4500'
```

- DHCP server: 1 個のサーバーの IP アドレスを特定する方法については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』の ILOM の初期セットアップに関するセクションを参照してください
- Linux と Solaris のオープンソースの `nmap` コマンド: オープンソースの `nmap` コマンドの `-p` オプションを使ってポート 623 をスキャンすることで、ネットワーク上にある IPMI 対応デバイスをすばやく検出できます。次に例を示します。

```
nmap -p 623 10.6.154.1/24
```



## SP をリセットする方法

ILOM SP は、次の方法でリセットします。

- ILOM SP の Web GUI で、「Maintenance (保守)」タブにある「Reset SP (SP のリセット)」を使用します。
- ILOM CLI で、次のコマンドを使用します。

```
reset /SP
```

- IPMItool で、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P パスワード -H SP-IP bmc reset cold
```

*SP-IP* の部分には、サービスプロセッサの IP アドレスを入れます。

- ILOM SP は、ホストをシャットダウンし、AC 電源コードをいったん抜いてからもう一度つなぐことでリセットすることもできます。

詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』を参照してください。

---

# ILOM ファームウェア 1.1.1 へのアップデートに関する注意事項

このセクションでは、ファームウェアのアップグレードに影響する注意事項を説明します。ILOM の一般的な問題については、『Sun Fire x4500 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

## ILOM ファームウェアと BIOS をアップデートした後に、空の FRU 情報が表示される (6406138)

サービスプロセッサには、ホスト CPU と DIMM の FRU 情報が表示されます。この情報は、電源投入時の自己診断テスト (POST) が BIOS で実行されるたびにサービスプロセッサに送られます。そのため、BIOS と ILOM をアップグレードすると、次の BIOS POST が実行されるまで FRU 情報は空になります。

### 対処方法

これは、正常な動作です。FRU の一覧を再生成するには、ブートアップ中にサーバーをリセットして POST を完了してください。

## CLI からアップデートすると JavaRConsole にキーボードリダイレクトのエラーダイアログボックスが表示される (6485951)

CLI を使ってアップデートを実行するときに JavaRConsole が有効になっている場合は、JavaRConsole で次のメッセージと「OK」ボタンを含むダイアログボックスが表示されることがあります。

```
Keyboard redirection error: an established connection was
aborted by the software in your host machine
```

(キーボードのリダイレクトエラー：ホストマシンのソフトウェアにより、確立されていた接続が中止されました)

## 対処方法

これは、正常な動作です。ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックして、続行してください。

「OK」ボタンをクリックしてもダイアログボックスが閉じない場合は、JavaRConsole プロセスを終了してください。たとえば、Windows プラットフォームでは、Ctrl+Alt+Delete キーを押して実行中のプロセスのリストを表示して、JavaRConcole プロセスを終了します。

## BIOS のアップデート後、CMOS 設定がクリアされるまで、ホストシステムのシリアルコンソールが停止する (6489959)

システムの BIOS をアップデートした後に、CMOS の設定をクリアしないと、ホストからシリアルコンソールを出力できない場合があります。これは、新しい BIOS で CMOS のデフォルト値が元の設定から変更されている可能性があるためです。

## 対処方法

シリアルコンソールを出力できない場合は、CMOS の設定をクリアしてください。CMOS の設定をクリアするには、次のコマンドを使用します。この例では、デフォルトのユーザー名 root とデフォルトのパスワード changeme を使用しています。

```
ipmitool -U root -P changeme -H SP-IP chassis power off
ipmitool -U root -P changeme -H SP-IP chassis bootdev disk
clear-cmos=yes
```

## ILOM フラッシュアップデートの新しいレイアウト

ILOM 1.1.1 サービスプロセッサでは、フラッシュレイアウトがわかりやすく刷新されました。レイアウトが変更されたため、ILOM の以前のリリース (1.0.x) にダウングレードするには、特別な手順が必要な場合があります。

1.0.x にダウングレードする処理を 2 回実行しないと、フラッシュレイアウトが古い形式にフォーマットされないことがあります。GUI、CLI、N1 System Manager を使ってフラッシュをダウングレードするときに、一度で正しくダウングレードできなかった場合は、もう一度手順を行うことで正しくダウングレードできます。

新しい ILOM フラッシュプロセスでは、新しいバージョンの BIOS が必要なときにだけホストの電源が切断されます。ILOM CLI の load コマンドには、すべてのコンポーネントを強制アップデートする `-f` オプションがあります。すべてのファームウェアコンポーネントを強制アップデートするには、次のコマンドを入力します。

```
load -f tftp://tftp サーバー /firmware.ima
```

`tftp` サーバーの部分には、簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) サーバー、`firmware.ima` はイメージファイルの名前を入れます (ILOM.X4500-1.1.1.ima など)。

## ILOM 1.0.x へのアップグレードで、BIOS のフラッシュが正常に終了しない (6499287)

フラッシュが正しくアップグレードされなかった場合は、その後の BIOS もバージョンが正しくアップデートされません。ILOM フラッシュのアップグレードが完了しても BIOS のバージョンが正しくない場合は、ILOM CLI の load コマンドで `-f` 強制フラグをオンにしてください。詳細は、「[ILOM フラッシュアップデートの新しいレイアウト](#)」(11 ページ) を参照してください。

## 新しいイメージをフラッシュした後、ILOM WebGUI にログインできないことがある (6513809)

イメージを SP にフラッシュした後に、認証エラーが発生して ILOM WebGUI にログインできないことがあります。Web ブラウザでキャッシュと Cookies を削除すると、通常どおりログインできるようになります。

---

# フラッシュを正しくアップデートできなかった場合の回復方法

このセクションでは、Sun Fire X4500 ILOM ファームウェアを正しくアップグレードできなかった場合の回復方法について説明します。ファームウェアをまったくアップグレードできなかったり完全にアップグレードできない問題がいくつか指摘されています。

フラッシュのアップデートが正しく終了しなかった場合は、次の手順に従って回復します。ごくまれに SP シリアルポートに出力が表示されないときなど、Graphics Redirect and Service Processor (GRASP) 基板を交換する必要がある場合もあります。



---

**注意** – フラッシュのアップデートが正しく終了しなかった場合の回復は、Sun Fire X4500 用の最新 ILOM 1.0 ファームウェアリリース (ilom.X4500-1.0.3.ima) で行ってください。

---

## 準備事項

- ILOM ファームウェアをリロードするために、簡易ファイル転送プロトコル (TFTP) サーバーが必要です。
- 回復処理の間は、ホストシステムの電源も切っておく必要があります。

---

**注** – 次の手順では、特に説明のない限り、16 進数で表記しています。

---

## 回復手順

1. ILOM SP の **First Level Booter** (ここでは **U-Boot** といいます) に問題がないことを確認します。マニュアルに記載されている手順に従って、SP シリアルポートに接続し、システムの電源を入れたときに表示される ILOM ブートメッセージを確認します。

詳しくは、『Sun Fire X4500 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

- 画面に出力が表示されない場合は、GRASP 基板を交換する必要があるため、後続の手順は行わないでください。手順については、『Sun Fire X4500 Server Service Manual (Sun Fire X4500 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください。
  - 画面に出力が表示された場合は、次の手順に進みます。
2. **xyzzy** を使って ILOM SP の U-Boot コマンドインタプリタを起動します。

ILOM の初期ブート中に「Booting linux in 2 seconds...」(Linux を 2 秒後にブートします) というメッセージが表示されたら、**xyzzy** と入力して U-Boot コマンドインタプリタを起動します。

---

**注** – 入力した文字は表示されないため、文字をコピーして貼り付けると、入力ミスがなく確実に起動できます。間違った文字を入力すると、システムの電源を入れ直す必要があります。

---

3. 自動リブートを無効にします。

U-Boot の環境変数 `bootretry` を `-1` に設定して、自動リブートを一時的に無効にします。

```
set bootretry -1
```

4. TFTP アクセスができるように、ネットワークを設定します。

a. ILOM SP と同じネットワークポートの IP サブネットでアクセス可能な TFTP サーバーに、ILOM SP ファームウェアのイメージをコピーします。

b. U-Boot 変数の `ethaddr` と `serverip` を設定して、ILOM SP の IP アドレスと TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。

```
set ipaddr n.n.n.n
set serverip n.n.n.n
```

5. U-Boot の `tftp` コマンドを使用して、ILOM ファームウェアをダウンロードします。

```
tftp 100000 ファームウェア.ima
```

ファームウェア `.ima` の部分には、イメージファイルの名前を入れます (ILOM.X4500-1.1.1.ima など)。

---

**注** – TFTP サーバーやファイル名が正しくない場合は、`^C` と入力して `tftp` コマンドを停止してから、回復手順をやり直します。

---

続行する前に、フラッシュイメージのダウンロードが完了していることを確認します。次のようなメッセージが表示されます。

```
=> tftp 100000 ilom.X4500-x.x.x.ima
Using FCC1 ETHERNET device
TFTP from server 10.6.154.8; our IP address is 10.6.154.99
Filename 'ilom.X4500-x.x.x.ima'.
Load address: 0x100000
```

```

Loading:
#####
#####
#####
#####
#####
done
Bytes transferred = 13107200 (c80000 hex)

```

6. ダウンロードが正常に終了していることを確認します。

a. tftp コマンドの出力結果が次の行で終わっていることを確認します。

Bytes transferred = バイト数

b. md コマンドを使用して、ファームウェアのイメージファイルの最初の文字列が出力に表示されることを確認します。次に例を示します。

=> md 100000

```

00100000: 244d4f44 554c4524 01004000 00000200 $MODULE$..@.....
00100010: 00000000 000000f2 67726173 70000000 .....grasp...
00100020: 01000200 40000000 61000000 0000ffff ....@...a.....
00100030: ffff0000 00000100 00000000 0000aa55 .....U
00100040: 46575f56 45525349 4f4e3d31 2e302e31 FW_VERSION=1.0.1
00100050: 0a46575f 44415445 3d4d6172 20203320 .FW_DATE=Mar 3
00100060: 32303036 0a46575f 4255494c 4454494d 2006.FW_BUILDTIM
00100070: 453d3130 3a35363a 30370a46 575f4445 E=10:56:07.FW_DE
00100080: 53433d57 41524e49 4e47203a 20554e4f SC=WARNING : UNO
00100090: 46464943 49414c20 4255494c 44212120 FFICIAL BUILD!!
001000a0: 0affffff ffffffff ffffffff ffffffff .....

```

7. 既存の ILOM フラッシュイメージを消去します。




---

**注意** – これ以降でフラッシュ回復処理を中断したり間違った U-Boot コマンドを入力すると、サービスプロセッサが無効になり、交換が必要になります。これ以降は、システムの電源を切らないでください。

---

- a. `erase ff200000 ffffffff` コマンドと `erase fe000000 feffffff` コマンドを使用して、既存のフラッシュイメージを消去します。

消去処理の進行中は、点で表示されます。次に例を示します。

```
=> erase ff200000 ffffffff
```

```
.....  
.....Erased 200/200 sectors
```

- b. 消去中にエラーが発生した場合は、消去が正しく完了するまで、`erase` コマンドを繰り返します。

---

**注** – それでも消去できない場合は、サービスプロセッサがフラッシュアップグレードに対応していないため、交換が必要です。GRASP 基板の交換については、『Sun Fire X4500 Server Service Manual (Sun Fire X4500 サーバーサービスマニュアル)』を参照してください。

---

## 8. 新しい ILOM ファームウェアイメージをプログラミングします。

- a. `U-Boot` の `cp.b` コマンドを使用して、新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロード場所 100000 から `ff380000` に、さらに終了アドレス `ffffff` までコピーします。

次に例を示します。

```
=> cp.b 100000 ff380000 ffffffff
```

```
Copy to Flash
```

```
.....  
.....done
```

- b. `fmh` コマンドを使用して、新しい ILOM ファームウェアのイメージを確認します。

リセットする前に、`fmh` コマンドを使用して、コピーが正常に終了していることを確認します。このコマンドにより、ファームウェアの詳細が表示されます。次に例を示します。

```
=> fmh
```

```
Listing FMH Modules
```

```
Flash Size : 32768 KB
```

```
Erase Size : 64 KB
```

```
Sector Count : 512
```

```
FMH Located at 0xff380000 of Size 0x00020000
```

```
Name      : grasp
```

```
Ver       : 1.0
```



Type : 0x0002  
Flags : 0x0000  
Size : 0x00000061  
Location: 0xff380040  
LoadAddr: 0xffffffff  
Checksum: Not Computed

-----  
FMH Located at 0xff3a0000 of Size 0x00120000

Name : sysbios  
Ver : 1.31  
Type : 0x0000  
Flags : 0x0100  
Size : 0x00100000  
Location: 0xff3c0000  
LoadAddr: 0xffffffff  
Checksum: Valid

-----  
FMH Located at 0xff4c0000 of Size 0x000c0000

Name : osimage  
Ver : 1.0  
Type : 0x0006  
Flags : 0x0119  
Size : 0x000ac9c8  
Location: 0xff4c0040  
LoadAddr: 0x00c00000  
Checksum: Valid

...

---

**注** - コマンド出力に何も表示されない場合は、間違ったメモリアドレスを入力している可能性があります。イメージが正しくコピーされるまで、tftp、erase、cp.bの各コマンドを繰り返します。新しいイメージをコピーする前に、既存のファームウェアイメージを消去する必要があります。

---

## 9. ILOM サービスプロセッサをリセットします。

サービスプロセッサファームウェアのイメージが回復したことを確認したら、reset コマンドを使ってサービスプロセッサを再起動します。

=> **reset**

## 10. システムの BIOS を回復します。

---

**注** – この手動による ILOM SP の回復処理では、システムの BIOS は再フラッシュされません。ILOM GUI または CLI を使ってファームウェアのアップグレード手順を繰り返してください。手順の詳細は、「[サーバーを Software Release 1.1 にフラッシュアップグレードする方法](#)」(2 ページ) および『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』を参照してください。

---

サービスプロセッサと BIOS の設定は、回復中に失われている可能性があるため、必要に応じてリセットしてください。

---

# リリース別のコンポーネントのバージョン

SP と BIOS は、必ず一緒にアップグレードします。BIOS と SP のいずれかを個別にアップデートすることはできません。

表 1 には、Software Release 1.1 用 Sun Fire X4500 サーバーコンポーネントのバージョンを示します。

表 2 には、Software Release 1.0 (初回リリース) 用 Sun Fire X4500 サーバーコンポーネントのバージョンを示します。

表 1           サーバー Release 1.1 のコンポーネントのバージョン

コンポーネント名	Sun Fire X4500 サーバーのバージョン
ILOM FW 1.1.1	SP ビルド 15632
BIOS	0ABIG018
Linux および Windows OS 用 Marvell SATA ドライバ	3.6.3_1

表 2            サーバー Release 1.0 のコンポーネントのバージョン

コンポーネント名	Sun Fire X4500 サーバーのバージョン
ILOM FW 1.0.3	SP ビルド 11888
BIOS	0ABIG015
Solaris 10 OS 用 Marvell SATA ドライバ	Solaris 10 OS にバンドル

